

# 保育そのとき

倉橋生

一、雨季が来る、先生の心に一層の晴れやかさが必要になる。くもり先生、しめり先生、じめく先生、あまだれ

(頭垂れ)先生などは、入梅中殊に禁もつ。

一、憎い雨、不都合の雨とばかり、そうお叱りになつてばかりゐますと、雨がまた愈々泣き出すだけでせう。

一、ぬれた靴下のまゝで遊んでゐる子はありますか。

ぬれた洋服のまゝで腰かけてゐる子はありますか。親の不行届、子の不注意には相違ございませんが、だからと言

つて、幼稚園で、水責めにして置く程の罪でもありません。おまけに、歸る時もぬれ靴をはいて歸るべしといふ宣告が出てゐる譯でもありません。

一、ぬれたたびから風をひく。

一、それにしても、雨の日の登園の心得に就て、家庭へこまかに注意してやる必要はある。まことに、お世話のやけた話であるが。

一、村に農繁季託児所がはじまる。日曜あたり訊ねて上げて下さい。なにもお手傳ひ下さるまで、ないにしても、その保姆さんに、御苦勞さまの一言ぐらゐ言つて上げて下さい。

一、但、慰めるよりも、あなたの得るところの方が多いでせう。